

フィジックス・トゥデイ 2008年12月号 10~12頁

© 2008年米国物理学協会。 S-0031-9228-0812-220-7

教授の免職に対する 科学者らによる抗議

下記に署名する我々は、磁気ミラー・プラズマ研究に精通したプラズマ物理学者であり、我々は最近日本国の筑波大学執行部がとった各処置について懸念しております。同大学の長 照二教授は、フィジカル・レビュー・レターズ誌 (PRL) 97巻055001頁 (2006年) [PRL97, 055001 (2006)]の論文において、故意に実験データを改ざんしたとされる理由から、2008年3月6日付で筑波大学プラズマ研究センターのセンター長の地位を剥奪されました。しかし実際には、この論文は極めて興味深く、その重要性として広い普遍性を持つ結果を含んでいます。長教授の研究チームは最も信頼のおける決定的な形で、シアー流 (剪断流) による安定化が、プラズマ中心位置を外した電子サイクロトロン加熱によって直接制御できることを示しております。しかし、筑波大学は PRL のエディター等のスタッフに、この論文を取り下げを要求しました。

長教授並びに他の三人のスタッフに対する告発は水林 博教授を委員長とする研究公正委員会に対し、大学院生からの申し立てにより始まりました。調査のうちに、委員会は PRL に掲載された論文を取り下げよう求めました。この要求は清水和彦教授を委員長とする大学の研究公正委員会調査委員会によって支持された結果に基づくものです。しかしながら長教授と同僚たちは、彼らの得たデータの完全さに確信を持っていたため、そのような取り下げを行うことを拒否しました。長教授らは、大学の委員会に対し問題の箇所について述べた科学的な報告書を提出し、フィジックス・オブ・プラズマ誌に掲載するべく、そのより詳細について述べた論文を投稿しました。大学の委員会は長教授の報告書に対し本質的な科学的批評を加えることをせずそれを却下しました。

一方、フィジックス・オブ・プラズマ誌のエディター達は通常の査読者による支持に加え、この投稿論文に繋がり伴う科学物議を知り、更なる2名の専門家に調査査読を依頼し、検討ののち、科学的に適切かつ出版の価値があると判断し、長教授らによる論文をフィジックス・オブ・プラズマ誌に掲載することを決定しました (フィジックス・オブ・プラズマ誌 15巻 056120頁 (2008年)) [Phys. Plasmas, 15, 056120 (2008)]。我々の観点からは、フィジックス・オブ・プラズマ誌のエディターは適切に行動し、この論文は以前 PRL に出版された短い論文で述べられた結果が正確で信頼性があるということを、説得力を持って確

信させるものです。しかしながら筑波大学執行部はフィジックス・オブ・プラズマ誌の編集委員会の意見をも受け入れませんでした。むしろ、筑波大学執行部は、2008年8月29日に長照二教授を筑波大学から解雇することを、世界中の報道機関に対して発表しました。

様々な科学施設や国々の磁気ミラー・プラズマ研究、特に筑波大学プラズマ研究センターによって行われた研究をよく知る数多くの科学者が、長照二教授と彼の同僚に対して行われた告発について、非常に懸念を示しています。長照二教授の主張に関する科学的な信頼性について支持を表明する、少なくとも四通の文書が筑波大学学長である岩崎洋一教授に送られました。しかしながらこれらの文書は全て無視されています。我々は、筑波大学が当該分野の専門家の意見に関心を払わないことも問題と考えております。

このガンマ10のチームが故意にデータを改ざんしてはいないことは我々には明白です。我々は、筑波大学執行部がなぜこのような著名な研究者を解雇するというような極端な行動に出たのか、理解できません。長教授は彼の実験的、解析的な手法を今までにずっと公開してきました。長教授は彼のデータと方法論を、彼の研究チームのみならずロシアやアメリカを初めとする共同研究者達と共有してきました。我々は、筑波大学がとった、長教授が大学から解雇されることになった一連の行動は、科学研究分野における検閲の一形態 (a form of scientific censorship) にあたるものと懸念しております。我々はこの問題について適切に構成された国際的な科学委員会がこのような筑波大学の行動について調査すべきであると信ずる次第です。

敬具

参考文献

1. 長照二他 フィジカル レビュー レターズ (Physical Review Letters) 97 巻 055001 頁 (2006 年)
2. 長照二他 フィジックス オブ プラズマ (Physics of Plasmas) 15 巻 056120 頁 (2008 年)

ハーバート L バーク

米国テキサス大学オースティン校

ナサニエル J フィッシュ

プリンストン大学

ニュージャージー州 プリンストン

アレキサンダー ブルダコフ

ゲンナジ I デイモフ

アレクサンダー A イワノフ

エドワード P クルグリアコフ

ブドカー原子核物理学研究所
ロシア アカデムゴロドク

ウラディミール モイセンコ
国立科学センター
ハリコフ物理学・工学技術研究所
ウクライナ ハリコフ

クラウス ノアック
ドレスデン-ローゼンドルフ研究センター
ドイツ ローゼンドルフ

ウラジミール パスツコフ
クルチャトフ研究所
ロシア モスクワ

田中茂利
京都大学
日本国 京都

オロフ アグレン
ウプサラ大学
スウェーデン ウプサラ